



2022年4月25日

各位

上場会社名 東京鐵鋼株式会社
代表者 代表取締役社長 吉原 每文
(コード番号 5445)
問合せ先責任者 専務取締役 柴田 隆夫
(TEL 03-5276-9701)

業績予想の修正および事業用資産の減損損失の計上に関するお知らせ

当社は2022年1月31日に公表した2022年3月期の業績予想を下記の通り修正するとともに、事業用資産の減損損失を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 2022年3月期連結業績予想数値の修正

2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,000	△700	△1,000	△1,000	△109.33
今回修正予想(B)	66,000	△200	△700	△5,000	△547.93
増減額(B-A)	0	500	300	△4,000	
増減率(%)	—	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	62,391	7,514	7,524	4,980	534.05

2. 業績予想修正の理由

通期の売上高は、概ね予想通りとなる見込みです。

利益面については、主に販売費及び一般管理費ならびに製造原価がそれぞれ若干想定を下回ったことから、営業利益は2億円程度、経常利益は3億円程度予想を上回ると見込んでいます。

親会社株主に帰属する当期純利益については、下記の通り、八戸工場における事業用資産の減損損失を計上する見込みとなったことから、予想数字を引き下げております。

3. 事業用資産の減損損失の計上について

八戸工場は、原料である鉄スクラップ等の価格上昇の影響により2022年3月期、2023年3月期と連続して赤字を計上する見込みとなり減損の兆候が認められたことから、将来キャッシュ・フローを算定したところ、回収可能価額が同工場の事業用資産の帳簿価額を下回る見込みとなったため、帳簿価額と将来キャッシュ・フローの現在価値との差額を減損損失として計上する見込みです。

損失計上額は、現時点では確定しておりませんが、約50億円と見込んでおり、上記業績予想の修正については、この金額を前提に算定しております。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確実な要因が内在しております。実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上